

## (9) 四国



四国地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産はこのところ増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

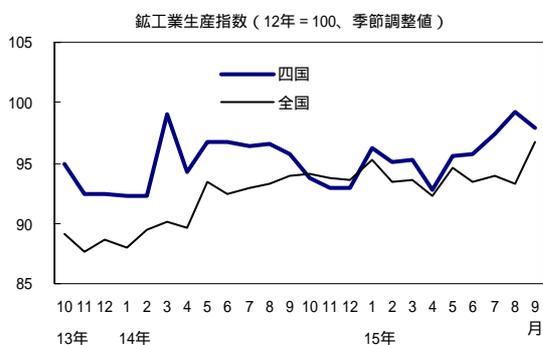
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 8 月）	今回（平成 15 年 11 月）	
景況判断	やや弱含んでいる	持ち直しの動きがみられる	
鉱工業生産	おおむね横ばい	このところ増加	
住宅建設	このところ増加	おおむね横ばい	
雇用情勢	依然として厳しい	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はこのところ増加している。

パルプ・紙は、衛生用紙や雑種紙が減少したものの、全体として底堅い動きとなっており、横ばいとなっている。食料品・たばこは、冷凍食品は堅調に推移しているが、冷夏の影響で清涼飲料が生産調整を行ったため、減少している。電気機械は、カメラ付き携帯電話やデジタルカメラ向け部品が好調であるのに加えて、LED（発光ダイオード）やリチウムイオン蓄電池が好調な内外需要を背景に高操業を続けており、増加傾向にある。化学は、医薬品が前期の反動で増加に転じ、樹脂原料などのアジア向け輸出も増加しており、持ち直しの動きがみられる。一般機械は、ベアリングが国内自動車向けを中心に堅調な生産を続けるなか、建設機械も首都圏の排ガス規制対応など、内外需要の増加に伴い生産水準が上昇しており、増加傾向にある。



(備考) 平成 15 年 9 月の四国は速報値。

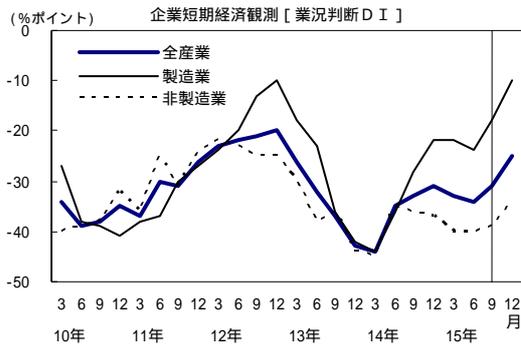
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
パルプ・紙	13.3	2.1	0.0	1.4	0.6
食料品・たばこ	13.3	2.8	6.5	10.3	13.5
電気機械	12.8	4.8	7.1	5.8	18.8
化学	12.7	11.1	6.0	10.1	6.8
一般機械	11.3	4.0	17.2	16.7	4.6
鉱工業	100.0	0.8	3.7	4.1	1.0

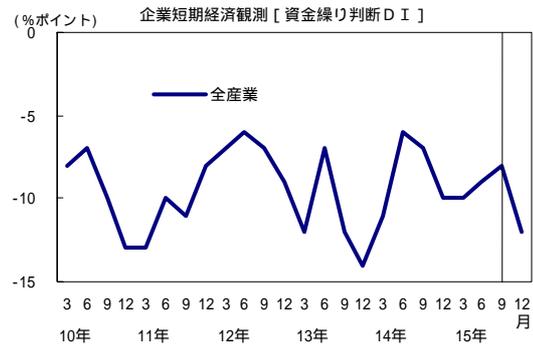
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 7～9 月期は速報値。

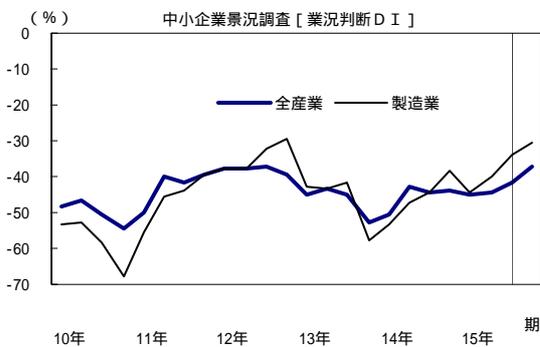
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。  
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「取引先の売上、利益率とも回復せず、厳しい状態が続いている (金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

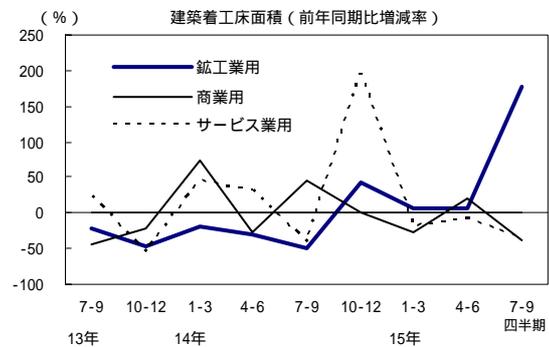
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績とほぼ同水準になっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	14.9	1.7[0.7]
製造業	22.9	1.3[0.3]
非製造業	8.8	3.6[0.9]

(備考) [ ]は前回(6月)調査結果。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

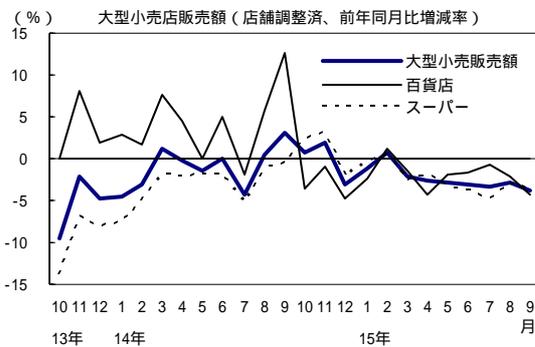
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月が靴、ハンドバッグなどの身の回り品や夏物衣料のセールが好調であり、8月は催事により美術工芸品が好調、9月は物産展などの好調により飲食料品に動きがあった。しかし、期間を通じて、天候不順により入店客数が伸び悩んだことから、全体でも7か月連続で前年を下回って推移している。

スーパーは、7月から8月にかけての冷夏で、ビール、清涼飲料など飲食料品の季節商品が低調であり、その後の残暑の影響で、秋物衣料品の立ち上がりが低調となったことから、全体でも7か月連続で前年を下回って推移している。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「直近の通行量調査によると、商店街全体では下げ止まりという結果が出ているが、各店への来客数は減少し続けている(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

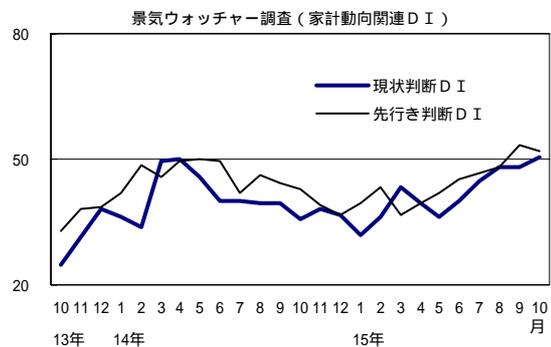


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	0.6	1.0	2.9	3.3
百貨店	3.3	1.1	2.6	2.2
スーパー	0.8	0.9	3.0	3.8
乗用車	1.9	6.5	6.2	4.6
景気ウォッチャー	36.9	37.3	38.4	47.0

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

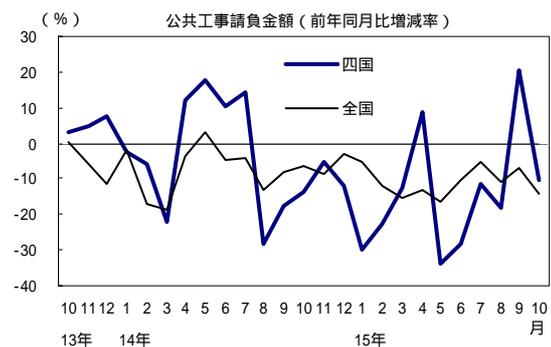
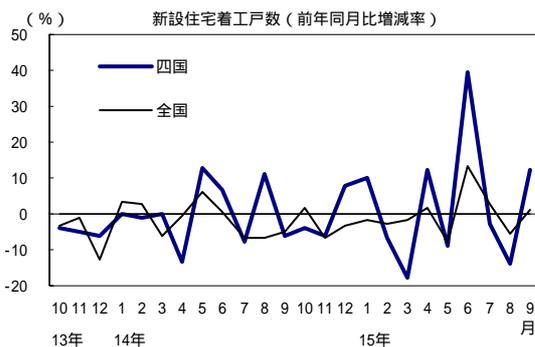
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



### (2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

### (3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

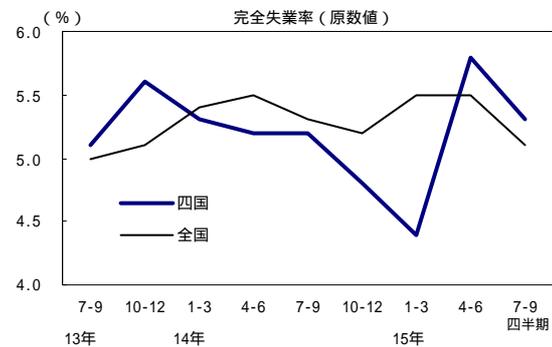
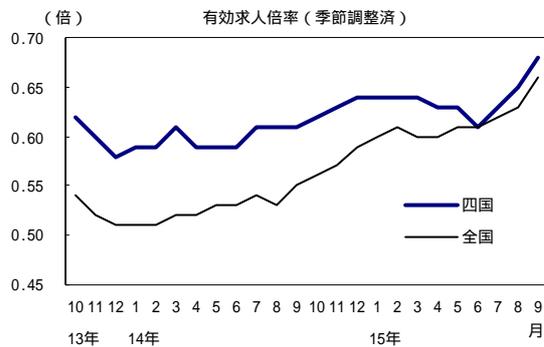


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

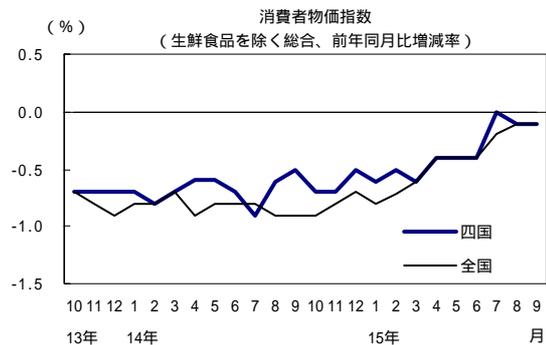
「新規求人は、製造業、サービス業、卸・小売業、飲食店で増加したため、当月は前年同月比が再び増加に転じた。ただし、派遣請負契約社員等の非正規従業員等の新規求人が主である(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月	15年10月
倒産件数	149	121	149	115	34
(前年比)	5.1	28.8	1.4	20.1	42.4
負債総額	273	350	817	487	84
(前年比)	70.2	58.6	116.5	58.7	14.8



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・中古住宅や住宅用地が急に売れてきた。市街化調整地域の解除を見越した住宅用地の一段の値下がり  
と、株価上昇による好況感が心理的に影響している(その他住宅[不動産])

<先行き>

・従来の電化製品では伸びは期待できないが、液晶テレビ、プラズマテレビ等の新しい商品の動きは良くなる(家電量販店)

